

「花街の魅力とそこのご案内」 ～秘密のベールの奥の世界～

2016年5月31日実施 JGA 第一支部研修 終了レポート



2016年5月31日、千代田区万世橋区民会館において、JGA 第一支部研修「花街の魅力とそこのご案内」を実施し、61名（会員57名、非会員2名、運営委員2名）が参加しました。講師は正会員理事の藤本旬氏。特に京都祇園の花街事情によく通じていらっしゃいます。

冒頭、「花街」は「はなまち」ではなく「かがい」と読むのが正式、と「日本の花街文化」の説明に始まり、「京都花街のしくみ」では「立方（たちかた）」「地方（じかた）」「置屋（おきや）／屋形（やかた）」「お茶屋」の違い、どのような過程（修行）を経て舞妓・芸妓に育っていくか、祇園での生活はどのようなものか、などなど、なかなか聞きたくても聞けない情報が紹介されました。祇園の歳時記は特に興味深く、四季折々に美や意味合いを見出す日本文化が凝縮されている印象がありました。また、折々どうすれば客としてポイントが上がるか下がるかなど、「お客」ならではの知識、体験談が披露され、参加者は興味深く耳を傾けました。

休憩後はガイドとしても必須知識の「お茶屋のルールやマナー」の解説と、お座敷遊び（お茶屋遊び）の紹介です。「とらとら（虎々、虎拳）」はジャンケンで、衝立のこちらとあちらで各々が「虎」「獵師（または加藤清正・和籐内）」「獵師の母」の格好を取ります。周りからはそれが丸見えなのですが、対戦者が最後に衝立から歩み出て、お互いに相手を見て「勝った！」「負けちゃった！」と喜んだりガッカリする様を見るのが何とも楽しい。また、「金比羅船船」はとっくりやビールの袴を裏返して台の上に置き、「金比羅船船…」の唄に合わせて交互に袴に手を載せては引っ込める、載せた時に袴を掴んで取ったら相手は拳を台に載せる、袴が台の上に戻ったら拳ではなく手の平を載せるというもの。次第に早くなる三味線と唄に、興じている2人も周囲も盛り上がります。その他、「鯨銚」の画像も紹介されました。



参加者に配布された書籍「はんなりと 京舞妓の四季」（溝縁ひろし著、京都新聞出版センター）は、花街の情報のほか舞妓さんの生活と共に京都の四季と文化が紹介されており、参考になります。楽しい講師のご説明やご用意くださった豊富な資料や映像で、区民会館の一室がひととき、雅な祇園の一角になったようでした。

